

お祭り、イベント...出張します

ちんどん ミッシェル座

☎0463(77)0026
http://livecafe-michel.jp

磯子区版は毎週木曜日発行です

磯子区 「みどころガイド」を発行

「逸品」、地域写真など掲載



地域のみどころが詰まった新しいガイド本

「磯子みどころガイド」はB5判サイズ、フルカラー、全40ページの本で、初版は3000部。2月17日から磯子区役所1階売店や市庁舎刊行物サービスセンター(中区)で、一冊200円で販売している。

「ガイドブックを作成。直近では、区制80周年記念事業として2007年に『いそごまちあるきガイド』を発行している。今回の刷新の理由には、前回の発行から7年経ち、掲載内容とまちの状況にズレが出てきていることなどが挙げられる。

新しいガイドブックでは、前作で掲載された内容も参考に、各エリアの名所や史跡、街のみどころを巡るコースなどを紹介。各スポットの説明と、コースやちょっとしたみどころなどを落とし込んだ詳細地図が掲載されており、街の散策を楽

しめるよう工夫されている。住民お薦め情報盛り込む。本の制作には、区が11年から取り組んできた「区の魅力発揮事業」で区民から集めた地域の情報を活用。磯子の逸品や、フォトコンテストで募集してきた地域の写真も多く掲載され、4年間の事業をまとめた集大成ともいえる。担当者は住

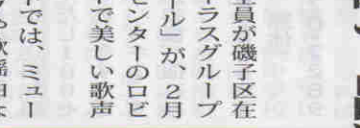
「区が読書活動推進目標」めざす。街中が図書館。めざす。磯子区はこのほど、今年度度実施された「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」に基づき、読書活動推進目標を策定した。

目標1:読書環境を整える。図書貸出施設・学校や図書に関わる施設のスタッフ・司書・ボランティアが交流・連携し、区民にとって身近な施設やサービス等の読書環境の充実を図る。

目標2:読書活動を推進する。子どもから大人まで、すべての世代が本に触れる機会を増やし、区民全体の読書活動を活発にする。読書活動を通じて幅広い世代の交流を促し、活力ある地域づくりや担い手づくりを進める。

歌で出演者と会場一体に

恒例ロビーコンサート



メンバー全員が磯子区在住という「コーラスグループ「ロビーヴォーカル」が、2月21日、磯子センターのロビーコンサートで美しい歌声を披露した。

コンサートでは、ミュージカルソングや歌謡曲など、全13曲を披露。透過した高らかな歌声が会場に響き渡ると、ロビーを通る歌声に耳を傾けていた。

「イキイキとした表情で歌声を披露するメンバーら。H.K.朝の連続テレビ小説「マッサン」の主題歌を、会場の全員と一緒に歌う企画も。出演者と参加者たちが一体となってコーラスを楽しんでいた。

「推進目標の概要」。貸出施設間の連携を強めることや学齢期の青少年が読書を楽しめるよう支援すること、学校との連携を強めることなどを力を入れる。

春のパーティープラン



春は新しい季節の始まり。歓迎会や謝恩会、年度の締めくくりと始まり。打ち上げなども多く行われる時季だ。

上大岡のイタリアンレストラン「四季の庭」では、そんな集まりに最適な「春のパーティープラン」を用意した。

同プランではまず、スパークリングワインで乾杯。その後は前菜、チボラソーセージとイペリコーンのグリル春キャベツ添え、2種のスパゲッティ、パンナコッタ、イチゴのベリーソース、コーヒードリンクアップで乾杯。その後、チボラソーセージとイペリコーンのグリル春キャベツ添え、2種のスパゲッティ、パンナコッタ、イチゴのベリーソースなど、旬の食材を贅沢に使用した品々が登場する。

相続・遺言の無料相談会

行政書士高田吉衛事務所は3月8日(日)磯子公会堂3階会議室1(JR磯子駅徒歩5分)で、相続や遺言に関する無料相談会を開催する。

相続に関する疑問や遺言の書き方等、区のボランティア講師として地域に密着した活動をする高田所長と、協力量事所の書士らが親身に相談にのる。

インドネシア料理に挑戦。上中里センで15人参加。当日は、住民など15人が参加した。インドネシアからジャバ島出身で市内在住の講師から指導を受けながら、ジャワカレーやガドガドという温野菜サラダづくりに挑戦。室内には香辛料のいい香りが広がった。

こんにちは♪ 我が家のアイドル **Smile Baby**

たかはし りおな **高橋 里央奈ちゃん**
(2014年9月21日 坂下町)

人の顔を見るとニコっとし、あやすと大声で喜び、毎日何度も癒されます。

お子様の写真を大募集(0~3歳)

住所・氏名(ふりがな)・性別・生年月日・電話番号・一言コメント・当紙への感想を添えて下記まで郵送または、メールでご応募下さい。順次ご紹介致します。(1人のお子さんにつき、1回のみ) 〒231-0033 横浜市中区長者町2-5-14-2F タウンニュース磯子区編集室(赤ちゃん)係 @isogo@townnews.co.jp (件名に「赤ちゃん係」と記入) (写真はご返却致しません)

プレゼント

掲載させていただいた方にもちろん **タウンニュースオリジナルグッズ** をプレゼントいたします。

防災コラム **“いざ”に備えて** 自助共助

2-8 顔の見える関係が大切

平成7年1月17日の阪神淡路大震災から20年が経過しました。その教訓を得て、横浜では避難所となる地域防災拠点ができ、自治会・町内会でも防災組織が作られ、各種の防災資機材の整備、防災訓練も行われてきました。さて災害が発生した時、それら防災組織や資機材は有効に機能するでしょうか。平時の訓練では責任者や防災に関心のある人たちが集まるので、それなりに機能します。しかし実災害発生直後の最も大変な時には、責任者不在かもしれません。そして普段は防災に関心な地域住民も含めて、全員が被災します。そんな時に頼りになるのは、遠くの親戚ではなく近くの他人です。絆の強い家族は当然として、親しい隣人はお互いに心配し合って、無事なら連携して共助活動ができるでしょう。一方、名前も顔も知らない隣人は見逃したり見逃がされたりし、協働活動もスムーズに行きません。

人口が集中し過ぎた都会での災害は、未曾有の被害が想定されます。2次被害減少には近隣共助が決め手ですが、田舎と違って都市部では近隣の「顔の見える関係」が希薄なことが問題です。防災とは「顔の見える関係づくり」と言っても過言ではありません。

著者紹介:防災を考える会・磯子

「防災を考える会・磯子」は、迫り来る大災害での防災・減災を目指し、家庭や地域の防災力向上の研究を重ね、その成果の発信や講演などを行っているボランティア団体です。